

映画いろいろ

藤本 勇

私が初めて映画を見たのは幼稚園の頃でした。オヤジに連れられて家族全員で嵐 寛壽郎(通称アラカン)が演じる鞍馬天狗だったと思います。

それ以来映画館に足を運んでよく映画を楽しみました。

戦後の混乱期を脱して大衆の娯楽は映画でした。まだ家庭にテレビが普及する前には公園にあるテレビで力道山の空手チョップを見に人が集まりました。またラジオの放送劇の「君の名は」の放送時間には、女湯がガラガラだった。

映画館はすべて自由席で指定席はなく、立ち見の人が大勢。2本立てが普通で場末の映画館では3本立て興行をしていました。つぎに記憶に残る映画について述べます。

洋画のポップホープが演じる「腰抜け2丁拳銃」をみて、今は亡き岡部君と中学だったか高校だったか忘れたが放課後、拳銃ゴッコしたのも懐かしい。

邦画では、黒沢明の「七人の侍」や松本清張の「砂の器」の親子が冬の日本海を巡礼する風景、芥川也寸志のオーケストラ音楽など。なんども見ました。作者の松本が自分の小説より映画が良いといった。

「ローマの休日」は大好きな映画の一つ。ヘップバーンとペックが一台のスクーターにまたがりローマの市内を駆けめぐり、秘密警察とヘップバーンが乱闘するシーン、

映画のラストにペックが撮影した写真を王女に渡した場面、報道関係者の前でヨーロッパを回って一番良かったのは何処かと聞かれる王女は「ローマです」と答えたシーンはいまでも鮮明に残っている。



モンロー演じる「帰らざる河」も良かった。酒場で主題歌の River of No Return を歌い、激流の



河をイカダで下るシーンや都会に出て歌手になるのが夢であったのに、諦めて田舎に行くとき履いていたハイヒールの靴を捨てて行く。

バーグマン演じる「誰が為に鐘なる」の彼女の目が綺麗であった。スペイン内戦時ク

ーパーが鉄橋爆破にゲリラと手を組む。最後に爆破後バーグマンたちを逃がすために一人頑張った姿が目に残る。



チャップリンの映画もよく見ました。「ライムライト」の踊子とチャップリンが良かったな。

いまロシアの侵攻にあっているウクライナの国花「ひまわり」。イタリア映画です。ソフィアローレンスの熱演。戦争はいつの時代も残酷です。

昔 日曜日の夜に「東芝日曜洋画劇場」あった。解説者の淀川長治さんの名解説。最後に「映画っていいですね。また来週」の声が残っている。